

YOKOHAMA ASAHI ROTARY CLUB WEEKLY



2024-25年度 RI 会長 / ステファニー・アーチック
RI.D2590 ガバナー / 長戸はるみ
横浜旭RC 会長 / 北澤 正浩

カールスカウト
とクリーン作戦



第11回 チャリティーコンサート

国際ロータリー第2590地区

横浜旭ロータリークラブ

事務所 横浜市旭区万騎が原33 / 〒241-0836
TEL.080-1215-6668 / FAX.045-362-0024
<http://yokohamaasahirc.org>
Email: asahirc@titan.ocn.ne.jp

例会場 二俣川駅ジョイナステラス3 / 4F コミュニティサロン
例会日 月3回水曜日 / 12時30分 ~ 1時30分

2024年12月14日 防災先進国イタリアに学ぶ講演会

講師 / 水谷嘉浩氏 (避難所・避難生活学会常任理事) 会場 / 神奈川近代文学館ホール

主催 / 横浜旭ロータリークラブ 協力 / みんなのネットワークかながわ

今日大阪から来ました。ちょうど政府から防災庁の話が出ていると思いますが、今年は能登地震もありましたし、大変な一年でした。

災害というのは非常に理不尽というか突然やって来ます。実際に被災すると大変です。先程も熊本地震の支援動画を見せて頂きました。非常に暖かい支援をされていたということでちょっと嬉しかったです。実は熊本地震の時は実際に現地に行っておりました。熊本地震は前震と本震があり、前震の後すぐに熊本入りしまして、ちょうどビジネスホテルにいる時に、震度6強位だと思んですけど実際に激しい揺れを体験してしまったんです。すごく、恐ろしいというか、大変なところに来てしまったなという、身の危険を感じました。そういうこともありましたが、やはり被災者の本当の気持ちには中々なれないと思うのです。私は、被災地に何回も行っていきますが被災はしていない。実際に自分が被災したらどうなるのかなということも含めて、お話を聞いて頂けたらと思います。

まずは、今年元旦の能登の話からしていきます。年末年始は娘が留学しているカナダの

トロントに居りまして、そろそろ帰る時期の1月1日に能登で地震があった。大変だということですが、兎に角予定通り2日に出発なので、トロントを出発して経由地のニューヨークから帰る予定でしたが、今度はJALの飛行機が突っ込み炎上しました。しかしなんとか3日に羽田について、4日は後片付けをして、5日に能登に入ります。

これは1月5日の写真です。非常に困難が伴う災害でした。地面が崩壊していたり陥没していたり、更に雪が降る。走れる道は1本のみ、金沢方面からずっと能登の先端に向けて国道があります。

土砂崩れは4、5か所ではなく40、50か所です。とてもじゃないけど行ける状態じゃない。初日の5日はこんな状態で、結局能登



空港の近くまで行きましたが、日が暮れてきたので引き返しました。被災地は暗くなると危険なので活動しないんです。そんな状況でこれは大変だなあということを感じながら6日に行ったわけです。これ避難所の様子です。これ見ての通りあの雑魚寝ですよ、体育館の床にもう直接寝ているような、これがスタートです。

メディア等で「低体温に注意してください」という内容が頻繁に出たと思います。「服の中に新聞紙を入れて暖を取ってください」と言っているのですが、なんて言うのか、どこの国ですか？と。今の日本で新聞紙を巻いて暖を取って下さいと言わざるを得ないのがやはり避難所の残念な状況です。

実際低体温になりそのまま凍死されてる方も沢山いたと思います。私は段ボールの仕事をしていまして、東日本大震災の直後に段ボールベッドを考案しました。今までいろんな災害地へ届けて来ました。

今回もまた能登に行って届けるわけですが、ただ届けて置いてくるのではダメなのです。届けて、組み立ててあげる、それにはすごい作業が待っています。この通り皆さん雑魚寝している所に設置するので、突然行ってもダメです。ここには私物もあるし、貴重品もあるわけです。ちゃんと計画通りやらないといけなくて、事前にいつこの日にやるので協力してくださいと住民説明をします。そしてブルーシートを全てひっぺ返してみんなで清掃する。1～2週間経つと写真のようにホコリやゴミが出てきます。ここに寝ているんですよ。



それから感染症対策ということで床の消毒もやりつつ、ベッドを搬入して組み立てて説明しながら設置して行って、最終的におばあちゃん、本当に寝たきりに近いおばあちゃんに寝て頂く、ここまでが私の活動です。

先ほどの雑魚寝の避難所と比べてみてちょっとすっきりしますよね。やはり廊下、大通りが出来て、腰をかけるベッドの段差が出来ます。皆さんも講演を聞いていただくのに椅子が無くて床に座って聞けますか？レストランで食事する時、椅子とお座敷だとどちら選びますか？椅子を選びますよね。平たい

場所に長時間居るっていうのは、ご高齢の方だけじゃなく、若い人でも辛いと思います。

20cmの高さがあるとホコリを吸引しなくなると言われていますが、ベッドは35cm。丁度車椅子と同じ高さです。腰掛けられるということです。たまたま今回ブルーシートは事情があり取らなかったのですが、弛みが足を引っ掛けたりもするので基本的にブルーシートは全て取ります。

ブルーシートの役割って皆さん分かりますか？避難所では何故ブルーシートを敷くのか？これは床を汚さないようにということです。床を守っています。いやいや、人を守りましょう。健康を守りましょう、というのが私どもの活動です。

今回正直、能登はめちゃくちゃ酷かったです。被災地にたどり着けなかったということもあります。段ボールベッド以外も環境がとても酷かったです。今日は行政関係の方いらっしゃいますか？今日は本当の事を言いますね。私が確認した限り、今回段ボールベッドは13種類来ました。普通ホームセンターで買って来る時に誰が13種類も買いますか？買いませんよね？そしてこれ誰が組み立てる

んですか？私だって他社のベッドの組み立て方は分かりませんし、強度もサイズも違うのです。手で押してグニャグニャになるベッドもあり、被災者の方にこれでいいのか？と尋ねられましたが、良いわけがないです。転倒の危険があります。

また、食事もトイレも悪かったです。私だけではなく支援者の多くがそう言っていました。特にDMAT（災害派遣医療チーム）の人達は、阪神淡路大震災や東日本大震災の頃に戻ってしまったと言っていました。それでいいのですか？

2年後には防災庁が出来るみたいですが、本当に今回はバラバラの支援が行われていて結果、なかなか芳しくないというのがものすごく顕著に現れたのかなというように思います。

能登は、奥能登（輪島市、珠洲市、能登町、穴水町）で人口がたったの6万人です。七尾市などを含めて能登半島全体の人口が14万人です。ちなみに横浜市は約370万人です。能登半島全部で14万人でそのうちに被災して避難所に殺到したのは4万人です。1月2日の時点で約4万人です。



そこに、DMATという医療専門家チーム、これは3月末迄で6万人来ています。対口支援と言って行政の支援が8万人来ています。横浜市も行ってますし、もちろん九州から北海道まで全国から来ています。消防、自衛隊、様々なボランティア団体、いろんな復興の企業関連企業、合計するとおおよそ20～30万人が行っています。

言葉が悪いかもしれませんが、たった4万人に30万人が行っていて、投入された費用・国費が約1兆円です。これ、どう思われますか？この金額、一切の支援に行かずに一人当たり2,500万円渡せる金額です。後で出てきますが、イタリアの支援はものすごく良く出来ています。でも、いま申し上げたように、日本だってものすごい国費と人を投入して災害支援をしているのです。

兎に角、能登は酷かった、昔に戻ってしまったと言っています。段ボールベッドについては、たまたま能登町というところが防災協定と言いまして、地元の企業と災害が起きたらベッドを持ってきてという約束をしていたのです。能登町の保健師さんが非常に熱意をもって、ベッドの設置を町長へ働きかけ、この防災協定が発動しました。たまたま協定を結んでいた会社は、私は昔から知っている会社で相談を受けていたので、やりましょうということで、要請から3日後から1週間をかけて12カ所すべての指定避難所へ1,000人分のベッドを設置し、100%雑魚寝を無くしました。その結果、医療チームが回りましたが、やはり血栓が少なかったです。能登町では非常に上手くいきました。

ところが、それ以外の自治体は上手くいきませんでした。能登町は行政職員の熱意があったので導入されましたが、それ以外はそうでもなかった。むしろ高齢化率が非常に高く

令和6年能登半島地震の避難所の状況について

今回の災害の特徴について

- ・能登半島の先端で被害が集中したが、アクセスが困難であった。
- ・元日の発災であり初動が遅れた可能性あり、帰省客の被害も多数。
- ・冬季・積雪期の災害であり寒さによる被害が多数。
- ・奥能登地方は高齢化率が50%を超えており、逃げ遅れによる被害の拡大も。

その結果、

- ・奥能登地方4市町の合計人口が6万人ほどにも関わらず支援が遅れた。
- ・防寒対策が事前に用意されておらず、低体温が相次いだ。
- ・TKB（トイレ、キッチン、ベッド）は準備不足により全て不足した。
- ・近年、雑魚寝の解消が早くなったと感じていたが、10年前に逆戻りした。

段ボールベッドの活動について

上手く行った能登町

- ・保健福祉部主導で災害関連死を防ぐ為に避難所環境改善に取り組んだ。
- ・危機管理部は事前に段ボール会社と防災協定を締結していた。
- ・町長の決断により、防災協定が発動した。
- ・防災協定締結企業から、要請の3日後にはベッドが届き始めた。
- ・避難所ごとに全員分のベッドが届き、即日ベッドを展開した。
- ・順次避難所7日間で指定避難所全12ヶ所の雑魚寝が解消した。
- ・企業からは延べ100人以上の社員が避難所での活動に参加した。

医療チームのエコノミークラス症候群のエコー検査により、他市町の雑魚寝の避難所に比べて血栓の出現率は半分～3割に留まった。

成功の要因は一気呵成の支援

政府や行政の現在の防災は災害に刃が立たない事が明らかに

- ・平時にTKBの準備が出来ていないので、発災後に迅速に対応できない。
- ・市町村防災の限界が明らかに、防災は国主導による標準化が必要。
- ・標準化した上で被災市町村の職員ではなく、近隣からの介入で避難所運営。
- ・対口支援（支援の担当制）の派遣職員は避難所運営の知識と訓練が必要。

たった6万人の被災人口ですら効果的な支援が出来なかったのに、南海トラフ大地震や首都直下地震では全く対応できるはずがない。

災害から国民をどう守り抜くのか、今こそ検討すべき！

50%を超えていますので、お世話が出来ません。で、どうするか？遠隔地域の金沢方面へ二次避難させるなど、要は避難者を減らしたかったのです。避難所の環境を良くしたら出て行かないですよ。ここでいいやっとなっちゃうので、出来るだけ環境良くしないようにする、そういうも発言があったそうです。これは複数から聞きました、実際私も聞いたことがあります。

行政職員を責めているのではないんです。行政職員もヘトヘトなのです。発災以来土日も休みなく、夜も寝ずにお世話し続けられないといけないということで、精神的に肉体的に追い詰められたと思います、私はこれは仕組み

が悪いと考えています。

先ほど段ボールベッドが13種類も来たと説明しましたが、これにも理由があります。経済産業省がプッシュ型支援を行うのですが、全国の段ボールベッドの在庫備蓄を調べてくれと業界に指示を出して、そして石川県に送ってくれという指示を出しました。その結果、熊本地震のお古とか、西日本豪雨の6年前のお古とかもかき集めた結果、13種類になったのです。

さらに自治体は、それぞれ個別に防災をやるので、日本中の自治体が同じものを使っているわけではない、ばらつきがあるんです、全部違うんです。バラバラなんです。結局使われずにゴミの山ですね。ベッドですら使われなかったという、能登町以外は本当に酷かったです。

先ほど市町村がバラバラで防災をやっていると話しましたが、これは災害対策基本法という法律があるからです。その法律には何と書いてあるかというところ「市町村が被災者支援をなさい」と書かれています。これは一見正しい様に思えますが、全国に1,741市町村があり、横浜市が一番大きいのですが、全国に1,741市町村があり、1,741人の首長さんがいて、1,741通りの避難所の有り方が日本に存在しているのです。

これをどう考えますか？能登で考えると、能登も穴水町も輪島も全部やり方が違うのです。そこが原因でなかなか支援が進まない。そんなバラバラに対応せざるを得ないので上手くいかない。

以前阪神淡路大震災の時は火事が酷く、全国から消防が駆けつけました。しかしいざ消火しようと消火栓にホースを付けようと思ったら合わない。市町村によってホースの径が違うからです。今は当然統一されました。

能登では断水が続いています。これも市町村により地下に埋設した水道管の部品が違う

からです。そういうのもあってズルズル時間がかかっていく。

これは逐次投入ですよ、必要があれば届けますよ、ちょっとずつやりますよ、災害支援でこれはダメです。もう余ってもいいから兎に角一気呵成にやらなければ駄目なのです。逐次投入、ご年配の方だとなんとなくピンとくるとは思います、日本が先の大戦で負けた理由、戦力の逐次投入だと言われていますが、災害でも同じ事してはダメなのです。

写真を見て頂きます。戦前の日本の避難所の写真です。北伊豆地震です。昭和5年、関東大震災です。横浜というか神奈川県も首都直下地震では相模湾が震源と言われてますよね。

次が阪神淡路大震災、この頃になると皆さん記憶があると思います。横浜も人口多いか

戦前の避難所の光景



1930年 北伊豆地震

1923年 関東大震災

近年の避難所の光景



1995年 阪神淡路大震災

2011年 東日本大震災

最近の避難所の光景



2016年 熊本地震

2018年 西日本豪雨

ら多分こんな状態になると思います。皆さん
 どうですか？全然知らない人が横で寝ていて、
 これだけでストレスですよ。もう少し時間
 が進むと 2016 年熊本地震、2018 年西日本
 豪雨、この頃になると、2 週間くらいたって
 ようやく段ボールベッドが届けられるよう
 になります。私が持って行きました。ずいぶん
 ベッドが届くようになりました。

そう思ったらこんな写真が出てきました、

100年経ってやっと追いついた



100 年前のアメリカ、スペイン風邪の時の写
 真です。どう思いますか？やっと追いついた
 のかなと思っていたのですが、能登では全く
 ベッドが使われなかった。アメリカはベッド
 で、日本は畳であるという生活習慣の違いが
 一つにあることは否定しません。だけど実は
 病気の予防のためにベッドを使っているのです。



調べたら分かってきました。これは古い
 1941 年の第二次世界大戦のドイツ軍による
 ロンドン大空襲、ロンドン市内が火災で燃え、
 市民が地下鉄、チューブという屋根が丸い地
 下鉄です、ここへ避難しました。この時はま
 だ雑魚寝でした。そうしたらやはりエコノミー
 症候群が出てしまった、これは論文が残って
 いるんです。

これを受けロンドン市は、戦時中にも関わ

らず、簡易ベッドを 20 万台入れています。
 その結果、エコノミークラス症候群をはじめ
 いろんな呼吸器疾患とか、色々な病気になる
 のですけど、それが改善したという論文が残っ
 ています。またこれは今でもロンドン市交通
 博物館でちゃんとブースが確保されていて展
 示されてます。私はこれを撮影しました。と
 いうことで、病気を予防するためにベッドを
 入れているのです。



ついでに同じよう
 なロンドンの地下鉄
 の動画なんですけど
 今度は食事を提供し
 ている動画です。戦
 時中、80 年前です。このように地下鉄の車庫
 で温かい食事を作って、電車で各駅へ運んで
 配る、英国なのでパンとミルクティやスープ
 など、そんな大したもの配ってないのかも
 かもしれませんが、地下鉄に避難されてる方に、
 温かい食事を提供しようというのが、80 年前
 に行われていました。やはり美味しいものを
 食べると笑顔になるというのは世界共通です。

ベッドに話を戻しますが、そもそもベッド
 とは何なのか？日本人も決して床で寝ている

実は、和室はベッドの集まりだった

参考 小川光瑞著
 「昔からあった日本のベッド」



寒さ・水・害虫・害獣対策 日本人も土間には寝ない

弥生人は床に雑魚寝はしていない！

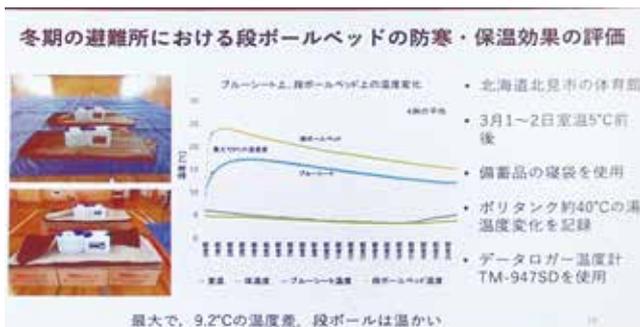


わけじゃないですよ、畳に寝てる、わけがあって土間に寝てるわけじゃないですよ。一段高くして寝るというのは当然で、生活の知恵で水が入ってきたり、寒さが伝わらないようにしたり、大昔から虫やネズミ等がいるから一段高くしたし、それに天蓋をつけたりする、これが6つ集まったのが和室になるそうです。ベッドの歴史を研究する文献を見つけて、和室はそもそもベッドの集まりだったという事が書いてありました。

佐賀県の吉野ヶ里遺跡へ行くと竪穴式住居再現しており、中を覗くとベッドが展示してあります。また大阪府八尾市の美園遺跡から出土した家形埴輪ですが、中を見るとベッドの痕跡はちゃんとあるんです。弥生人はベッドに寝ていたのです。日本人は別に床に寝る民族じゃないですよってことですね。

低体温で亡くなっている人がいるということで、東日本大震災時にこの段ボールベッドを考案したんですけども まあなんとなく暖かいということは皆さんご存知ですよ、さっきから新聞紙を挟んでも温かい、特に段ボールは空気の層があるので なんとなく暖かいんですけども、どれだけあったかいかは誰も答えられないんですよ。

そこでちょっと実験してみました。北海道北見市の体育館、室温5度の場所で、ブルーシートとベッドを比較してみると、9.2度の温度差がありました。この実験では寝袋をかましているのですが、寝袋が無ければもっと差が生まれていたのです、9.2度も暖かいとなると、おそらく低体温もかなり予防出来るのではと



思います。



実は段ボール工場は日本中に多くあります。大手だけで400、神奈川県にもたくさんあります。全国に2,500工場あります。ということは、日本のどこで何が起きても段ボールベッドなら届けられるよね、というのが発想でした。北海道や石川県にもありますし、もちろん都市部はたくさんの方が存在しています。

自治体と業界で事前に防災協定という、つまり何かあった時に、ベッドを届けてくださいという協定をどんどん結んでいけば、日本中にベッドが届けられるだろうということで、設計図を2011年5月に、無償で業界団体のホームページに公開しました。

これでみんなやってくれるだろうと考えたのですが、ここが私の甘いところなんです。結果としては、いろんな会社にコピーされて、ちょっと変えて自社開発みたいなのがどんどん出てきてしまって、その結果、能登に13種類もいってしまったわけなんです。だから災害支援やるからみんなやろうね、と言ってもそんな世の中あまくないなとか、かなり悔しい思いもしました。しかしそこはもう私は気にしません、気にせず自分のやるべきことをどんどんやっていました。

ここで段ボールの機械を少しお見せいたし



段ボールの機械

10年間の主な活動について

被災者ファーストの観点から、社会貢献活動として避難所環境の最適化を図ってきた。

| 発災時期 | 災害 | 台数 | 段ボールベッドの主な活動 |
|----------|---------|--------|---|
| 2011年3月 | 東日本大震災 | 2,800 | 東北3県に支援活動を開始。業界団体に設計書無償提供及びHPにて公開。 |
| 2011年9月 | 紀伊半島豪雨 | 200 | 2012年9月防災基本計画に簡易ベッドが記載。国として初めてベッドの必要性を認知。 |
| 2013年10月 | 伊豆大島土砂 | 20 | 2012年5月災害救助法の適用物品に初めて指定される。 |
| 2014年8月 | 広島土砂災害 | 450 | 2013年10月公正取引委員会より独禁法適用除外の通告。2014年1月佐賀県が県として初めて防災協定締結。 |
| 2014年11月 | 長野県北部地震 | 50 | |
| 2015年5月 | 口永良部噴火 | 20 | |
| 2015年8月 | 桜島噴火 | 10 | |
| 2015年9月 | 常総水害 | 650 | |
| 2016年4月 | 熊本地震 | 5,300 | 初めて政府のプッシュ型支援でベッドが届く。内閣府避難所ガイドラインにベッドが記載される。 |
| 2016年8月 | 台風10号 | 30 | |
| 2016年10月 | 鳥取地震 | 280 | |
| 2017年7月 | 九州北部豪雨 | 50 | |
| 2018年6月 | 大阪地震 | 250 | |
| 2018年7月 | 西日本豪雨 | 4,500 | 業界団体と同山県との協定が発動し、初めて被災者全員にベッドを配布。 |
| 2018年9月 | 北海道胆振東部 | 1,500 | |
| 2019年8月 | 佐賀県水害 | 500 | 経産省からの要請後48時間以内に届ける。 |
| 2019年9月 | 台風15号 | 150 | 千葉県館山市からの要請後24時間以内に届ける。 |
| 2019年9月 | 台風19号 | 3,830 | |
| 2020年7月 | 熊本県人吉水害 | 2,500 | 熊本県からの要請後48時間以内に届ける。益城町が台風対策で初めて災害発生前に250床を設置。 |
| | 合計 | 23,090 | |

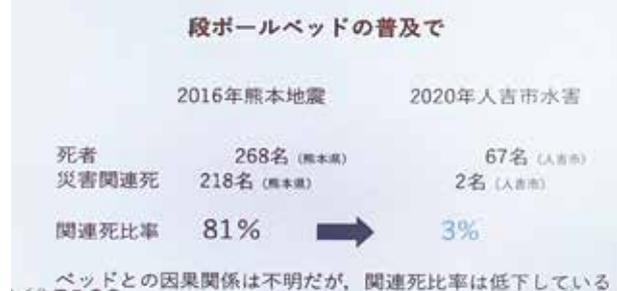
まず。段ボールベッド1台作るのに単純計算ですが2～3秒です。ということは、何千台、下手したら何万台を1日で作れます。輸送など他の問題はありますが、段ボールベッドというのは、本当に簡単に大量生産できます。

東日本大震災から始まり、この10年間で、海外はイタリアにも行き、国内では20数か所の被災地、避難所は500カ所以上へ行っています。

その過程で、現地へ行って頑張っただけじゃやはりだめで、行政とか国にもいろいろ働きかけています。

例えば、日本の国で最高位の防災会議で、中央防災会議というのがありますが、中央防災会議の防災基本計画というのがありますが、今まで一切ベッドに関する記述がなかったのですが、今は段ボールベッドが入っています。入れてくれと頼みに行きました。ですから国としてはいまベッドを入れるというのが基本になっていますし、内閣府の避難所運営ガイドラインにも、雑魚寝はやめてベッドを導入するように書いてくれるようになりました。過去これだけやってきて、メディアにも取り上げられるようになって、ベッドというのがようやく広まってきたのかなと思っています。

その結果、2016年熊本地震の時は災害関連死が多いといわれてきたのですが、死者の大体の8割が関連死。避難所で亡くなったと言われているんですけども2020年人吉水害の時は関連死の比率が3%位まで、ベッドが入ると3%位まで減ったということです。



これはきちんとした比較ではないのでベッドのおかげで減ったかどうかは分かりません。ただし、ベッドが導入されてなおかつ関連死が少なかったです。根拠をなかなか示すのが難しいですが、いずれにしても少しずつ減ってきているのかなと思います。

次にトイレです。このようなトイレ、工事現場でよく見るようなことがあると思います。皆さんも花火大会等で仕方なく使ったことがあると思うのですが、やはりこれは和式です、しゃがむタイプ、上に電気、電灯もないです。手洗いの水もないです。これが来る、というかこれすら来ない、1週間2週間トイレは来

多くは従来型の簡易トイレ 全国の自治体が提供したトイレカー



- 和式で内部が狭い
- 電灯もなく不用心
- 洋式トイレで清潔
- 強烈な臭いで耐え難い
- 手洗いが無く不衛生
- 内部が広い
- 床の汚れなど不衛生
- 子供がトイレを怖がる
- 断水の場合はバケツ水
- 段差があり不安定
- 高齢者には使いづらい
- 階段があり高齢者には使いづらい

ません。ではその間どうしているの？ということですが、男性は何とかなくても、女性は厳しいですよ。もちろん携帯トイレとか、おうちのトイレにビニールかけてなんとか用を足すということですが、いずれにしてもこの写真は熊本地震の時ですが、数が揃っているように見えますが、これは随分経ってからです。

最近メディア等でスフィア基準という言葉聞いたことがある人いますか？まだそんなに広がって無いようですね、避難者支援等の基準が国際的に決められています。メディアも、実は政府も間違えているのですが、要はトイレは20人に1台とか、例えばトイレ・キッチン・ベッドとか、物さえ整えたらいいという風に取り違えてるんです。

スフィア基準というのはそもそも「尊厳を守られているかどうか？」ということ。2週間トイレが来ずにやっと来たのがこれ。それで女性が夜に体育館から出て行ってトイレできますか？トイレ行きたくないですよ、だから水を控える→エコノミー症候群になる、そういう悪循環になっていくのです。

今回、能登にはいいトイレが来たんですよ。トイレカー。広くて非常に使いやすく、ウォシュレットではなかったですが、足踏み式で綺麗で使いやすかったのですが、残念なことが1つだけあります。これ雪ですよ、杖ついたらおばあちゃん、登れないのです。

こんなにいいトイレ、幾らすると思います？2,000万円です。今買ったら2,700万円。

これを今自治体は必死になって買おうとしています。ちょっと待って、おじいちゃんおばあちゃん使えないよ、でも知らないのです。現地に行ったら分かります、これが使えない事が。ただ物を揃えたら良いということではないということです。

それから食事です。これは西日本豪雨の時の写真ですが、毎回どこもこんな感じ。です。

K 従来の避難所の食事 西日本豪雨

- メロンパンとくるくるデニッシュが4ヶ月
- 目先の安全性とコスト最優先で生産する工業製品
- コンビニ弁当のローテーション
- ボランティアに依存した不安定な炊出し



野菜ジュースが用意されるが、はたして野菜なのか？

メロンパン、くるくるデニッシュ。若い子はメロンパン好きですが、4ヶ月食べ続けられますか？朝メロンパン、昼おにぎりやカップラーメン、夜はコンビニ弁当。最初は有難いけど、これが1週間1ヶ月も続くと、被災者の方がもういい加減ちょっと変えてほしい、と行政に頼んだそうです。そうすると、分かりましたと言って、セブンイレブンからローソンに変わりました。これはネタでもなく本当の話です。

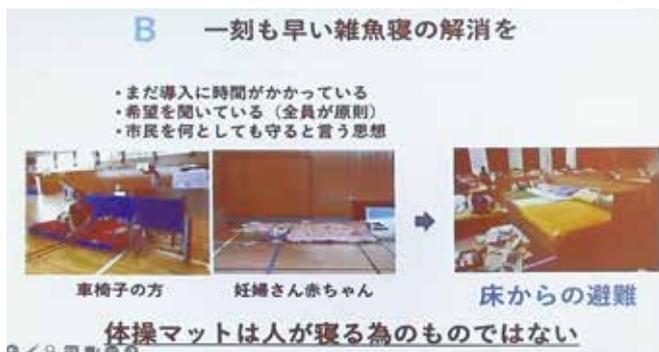
内閣府などからも視察や見学に来る場合があります。そこで何か欲しいものを問われ、そろそろコーヒーが飲みたいと答えます。発災してから日々追われているからホッとしたいのです。分かりましたコーヒーを送ります。と言って届いたのがコーヒー豆。ミルクは？ミルクは贅沢品なので、災害救助法の対象にはなりませんと言われたのです。馬鹿じゃないの？豆届けられて、フィルターもミルクも必要なのに、つまりは色んなことがそうなんです。色んなルールが事細かく決まっていて、柔軟性が全くない。メロンパンなんて見たくもないと言っていました。栄養が偏る、と出して来るのが野菜ジュースです。野菜ジュースっ

てそもそも野菜ですか？違いますよね？飲まないよりましなので飲むわけですが、野菜不足の解決には全然ならないです。

この間、内閣府の防災担当副大臣から私の所に連絡が来まして、農林水産省の役人が副大臣に説明する、所謂大臣レクチャーというのがあるから、横で聞いてほしいということで、一緒に聞きました。

能登半島地震の食の支援について、例えばご飯何万食、パン何万食を送りましたという報告を大臣にするわけです。終わってから副大臣にコメントを求められたので、こう言いました。農水省の説明にエネルギー(カロリー)と栄養、これは沢山出てきます。でも美味しいという言葉が一言もないのです。人間はカロリーと栄養だけで生きているのか？ということです。もしそうだとしたら、避難所でサプリメントを配ればいいと思います。もしくは点滴を打てばいいと。違いますよね、やはりみんなで食事して、美味しいものを食べてそれで頑張ろう、となりますよね。農林水産省のえらい役人の報告に一言「美味しい」食事という言葉が欲しかったです。

これは大阪地震の写真ですが、ご覧の通り



体育館にある体操マットで寝ています。私1度この体操マットを布団たたきで叩いてみたいと思うのですが、皆さん体操マットで寝ることはできますか？ここに車いすの方や妊婦さんもおられました。これはまずいです。こういうところで寝かせてはダメです。

熊本地震の時には私も本震を体験してしまっただけですが、本当にびっくりしました。

夜中の一時半くらいでしょうか、熊本城の前のビジネスホテルで、いきなりトランポリンのような、それも自分がではなくビルごと、部屋ごとトランポリンのようになり、先ずホテルの窓ガラスが割れました。そして停電になり、TVが飛んできて、水道管が破裂して、非常階段が滝のようになっていました。とにかくびっくりし、荷物まとめてロビーに降りました。みんな集まっています。外へ出て向かった避難所はこれ(写真)でした。



写真をよく見てもらうと、靴があるんですよ、皆さん靴をはいて土足です。これはなぜか？余震があるからです。余震のたびに天井がガシャガシャとなり、その度にキャーと言って逃げるのです。心臓がギュッとるのが定期的に来るのです。この状況皆さんどうですか？

もっと心臓がギュッとすることがあります。それは、携帯のアラート音が同時に100個鳴るのです。例えば100人避難されていたら、100台携帯があるわけです。それだけで心臓がギュッととなり、だから皆さん土足、靴を履いているわけです。ここで寝たら、もう土間に雑魚寝です。

熊本地震の時、私は本当に来てはいけないうところに来てしまったな、と正直思いました。私は断言します、熊本県人、この日は一睡もしていません。その日から不眠が始まっています。あんな余震が来たら寝られるわけがありません。

次に水害です。これ(写真)は台風19号、長野です。この写真のおじさんの服は、恐ら



くもとも白です。これは発災5日目の写真です。5日目でコーヒー牛乳みたいな色の服を着られている方がいっぱいおられます。なぜって着替えがないのです。どこの国ですか？我が国はどこの国ですか？水害の被災地で着替えが無いので、泥がついたままの服、さらに靴すら流されて、履いていないという人がいっぱいいるのです。

地震は崩れるけれど、まだ物が残ります。水害は全部流されるから何も残らない。こういう服のままの方が、昼間は家の片づけに出かけ、ドロドロになって避難所へ戻り、ドロドロのままこのように避難所でご飯を食べる。こういう人たちに、段ボールベッド持ってきたからどうぞ寝て下さい、と言えますか？

お子さんが泥んこ遊びして帰ってきたら、まずお風呂に放り込まれるわけです。シャワーを浴びて新しい着替えを着て、それから部屋に入ってきますよね。お風呂がない、洗濯機がない。

私はちょっと見るに見かねて、知り合いの代議士に電話して頼みました。すると大手のアパレルメーカーから洋服が来ました。届けられた服は3Lと3S。肝心のLとかMはちょっとしかない。すぐに無くなり、残ったのは3Lと3S。避難所は在庫処分場所ではありません。これ現実です。

何故か？無償支援だからです。国がお金払えばいいのです。災害救助法で服は対象になっています。本来は日本のアパレルメーカーだから、日本人のサイズを把握しているはずで

す。Lサイズが何%でMサイズが何%で、など把握しているけれども、来る服はこういう状況です。これは災害支援と言えますか？ゴミを送っているのと同じです。これは第二の災害と言います。被災地に負担をかけている第二の災害です。

また雑魚寝の話に戻りますが、雑魚寝が引き起こす色々な病気、エコノミー症候群が有名ですが、生活不活発病や床のホコリを吸って呼吸器疾患、低体温症や不眠、その結果どうなるかということ、災害関連死です。

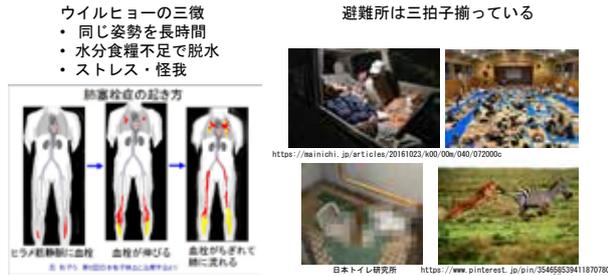
避難所とか避難生活で亡くなる人が出てくるのです。能登も現在約250人、かなり増えてしまいましたが、平成の30年間で約5,000名関連死が出ています。これが多いか少ないか？後で出てくるイタリアはゼロです。イタリアでは災害関連死という概念すらないそうです。

日本は毎回出ています、止まりません。例えば国が東日本大震災の調査をしています、避難所の環境が悪くて亡くなっている人が50%。半数が避難所の環境の悪さが原因です。冷たい床、不衛生なホコリ、エコノミー症候群は血栓がふくらはぎに出来て、それが肺へ飛んで肺塞栓、これは元気な人が突然目の前で倒れて亡くなるそうです。搬送しても間に合わないそうです。

エコノミークラス症候群の原因は3つあると言われていています。動かない、水分をとらずに脱水、それから過度なストレスや外傷。避難所は3つ揃っています。全員がなるわけではないですが、なりやすい人が一定割合いるということです。

車中泊もそうです。一定時間ずっと狭い場所で縮こまって寝る。雑魚寝、お年寄りには床に座ったら雑魚寝になり、昼も夜もずっと寝ているようになる。そうするとADL、日常生活を送るために必要な基本的な活動、起き上がり歯を磨いたり服を着替えたり、そういっ

エコノミークラス症候群とは



た能力が低下します。

そしてトイレです。口に出すのもおぞましい光景です。当然これだと水を控えます。トイレに行きたくなくなります。確実に血が濃くなって血栓が出来ます。

最後にストレスです。命の危険が迫ると失血死を防ぐために、血は固まろうとします。外傷があると血が空気にふれ固まるようになりますが、体内ではそれが血栓となり逆効果になります。

このグラフはとても重要で、新潟県の調査による新潟県中越地震の重篤なエコノミークラス症候群の症例のグラフです。赤が死亡、黒が助かっています。グラフの一番左、年齢と性別を見ると分かりますが、皆さんなんとなく高齢者が多いと思いませんか？見て

わかる通り、亡くなっているのは若い現役バリバリの女性です。これがエコノミークラス症候群の特徴です。高齢者もちろんなりますが、若い現役の活動性の高い人が災害によって、家族を失くしたり家を失ったり、過度なストレスで一瞬にして血栓を作るのです。それがどんどん大きくなりやすくて、肺に詰まってしまう。

高齢者はこう言ってはいけないかもしれませんが、もともとあることも多いそうなんです。若い人ほど亡くなってしまいます。

熊本地震で39歳のお母さんが亡くなっています。決して高齢者の話ではなく、自分がハイリスクであると分かっている人は多分ないと思います。事前に誰がハイリスクであるかと分かることは少なく、つまり、環境整備というのは、全員を対象に行わなければならないということです。この人は危ないからやりましょうということではなく、すべての人に対してやるべきことです。

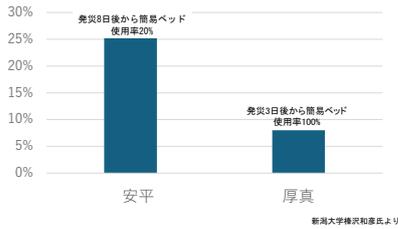
こちらは2018年北海道胆振東部地震の際のデータですが、厚真町は発災直後に北海道庁に段ボールベッドを要請し、3日後から

2004年 新潟県中越地震後の肺塞栓症 (県内100床以上の病院調査)

| 年齢 | 日数 | 車種 | 乗車 | 発症日 | 予後 | 入眠剤 | 夜間トイレ |
|------|-----|------|-----|---------|----|-----|-------|
| 79 女 | 14日 | セダン | 後部 | 11/7 | 生存 | | 有り |
| 76 女 | 2日 | セダン | 後部 | 10/25 | 生存 | 有り | 有り |
| 75 女 | 3日 | | | 10/31 | 生存 | | |
| 71 女 | | | | 11/2より前 | 死亡 | | |
| 67 女 | 2日 | | | 10/25 | 生存 | | |
| 64 女 | 5日 | | | 10/28 | 生存 | | |
| 64 女 | 4日 | | | 10/27 | 生存 | | |
| 60 女 | 14日 | セダン | 後部 | 11/7 | 生存 | | 有り |
| 50 女 | 6日 | 軽自動車 | | 10/29 | 死亡 | 有り | 無し |
| 50 女 | 2日 | | | 10/25 | 死亡 | | |
| 48 女 | 5日 | ワゴン | 運転席 | 10/28 | 死亡 | 有り | 無し |
| 47 女 | 5日 | | | 10/28 | 死亡 | | 足が不自由 |
| 46 女 | 2日 | | | 10/29 | 死亡 | | |
| 43 女 | 4日 | 軽自動車 | 後部 | 10/27 | 死亡 | 有り | 無し |

新潟大学 榛沢和彦医師調べ

2018年北海道胆振東部地震発災11日後までのDVT検診結果(9.11-18)



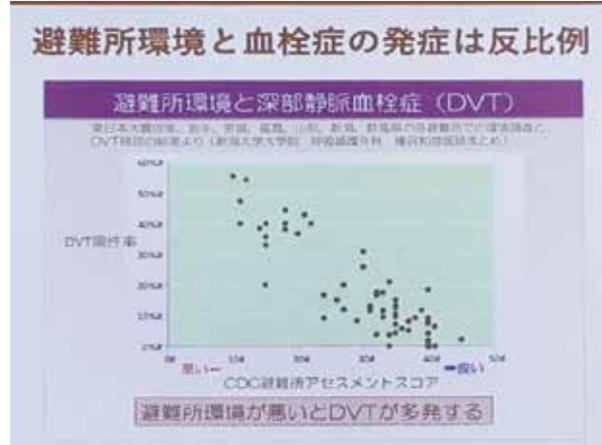
2014年の広島土砂災害や、2015年の常総水害も同じ傾向であった。100%の使用であったのに比べ、安平町は8日後から20%の使用にとどまった。何故かという職員がベッド必要性を認識しておらず要請が遅れた上に、配布の際に希望を聞いてしまったのです。一人が不要と答えると私も、というように遠慮したのか分かりませんが、住民にも段ボールベッドの存在もよく分からなかったのかもしれない。

結局あまり使われず、血栓の発生率も厚真町1対安平町3、ベッドを使ったほうが血栓の発生率が少ないのです。

これは他の災害地でもそうでしたが、ベッドを使うと段差があるので、歩く立つ動くという活動性が維持されます。

これはアメリカの疾病予防管理センター(CDC)の避難所のあり方を書いたアセスメン

あったか？や、洗濯機やシャワーはあったか？子供の遊び場はあったか？それは安全だったか？ベッドやペットについての評価もあります。これはアセスメント(評価)なので点数をつけていくわけです。



この評価を日本でもやってみました。そうすると点数が高いほど血栓が少ないことが分かりました。ベッドや水、洗濯機が血栓と関係あるのか？と思うかもしれませんが、トータルで環境が良いと病気は減るということが日本にも言えるのです。当たり前ですが環境をよくすれば関連死は減ります。

災害支援というのは、全て法による救助なのです。災害対策基本法という法律に基づいています。災害対策基本法には何て書いてあるかという「第一章第一条に国土並びに国民の生命、身体及び財産を災害から保護するため」とあります。どうせなら国土が一番前でなく国民の生命を一番前に替えてほしいところですが、国民を守るためにあるとするならば、避難所において関連死を出さないことが一番重要なはずで

病気にならない。避難所で人が亡くならないようにする。その為に法に依る救助をしましょう、というのが正しい道だと思います。

一方で、災害関連死とは定義がありまして、「当該災害による負傷の悪化、又は避難所生活等における身体的負担による疾病により死亡し、災害弔慰金の支給等に関する法律に基づき災害が原因で死亡したものと認められたも

| CDC疾病予防管理センター 避難所アセスメントシート | | |
|----------------------------|------------------------|------------------------|
| 環境 | 飲料と水 | 子供の遊び場(準備がなければ全部×) |
| 1. 避難所建物に設置無し | 20. 十分な飲料水があった | 38. おむつ換え場所が確保された |
| 2. 入浴用のチェアがあった | 21. 十分な水が使えた(清潔) | 39. 子供の遊び場(手洗い場)があった |
| 3. 水道が使えた | 22. 安全な水が使えた | 40. 遊具は十分あった |
| 4. お湯が使えた | 23. 安全な水が使えた | 41. 遊具は安全であった |
| 5. 空気が汚れていなかった | 医療 | 42. 子供の食事場所は清潔であった |
| 6. 一人あたり3.3平米以上あった | 24. 医師の診察がなかった | 43. 医師を必要とする人の数は十分だった |
| 7. 事故の危険はなかった | 25. 毒蛇の危険があった | 44. 遊び場は受け入れられる清潔であった |
| 8. 虫などの侵入がなかった | 26. 電線の損傷があった | ベッド(準備がなければ全部×) |
| 9. 電気が使えた | 清潔度 | 45. 十分な簡易ベッド、マットなどがあつた |
| 10. 冷暖房発電機があつた | 27. 清潔度は十分あつた | 46. 十分な簡易ベッドの供給があつた |
| 11. 室内の気温は寒くなかつた | 28. トイレの数は20人に1個以上有り | 47. ベッド(布団)の定期的な交換があつた |
| 食事 | 29. シャワーがあつた | 48. 十分なベッドスペース(3平米以上) |
| 12. 避難所で食事を作っていた | 30. 半洗面槽は20人に1個以上有り | 49. 受け入れられる清潔であった |
| 13. 避難所で食事を配膳していた | 31. トイレが受け入れられる清潔度があつた | ベットケア(準備がなければ全部×) |
| 14. 食事は十分供給されていた | 32. トイレが受け入れられる清潔度があつた | 50. ベットの固さが適切だった |
| 15. 食事は十分ストックされていた | ゴミ | 51. ベットの湿度をコントロールした |
| 16. 食事は冷たくなかつた | 23. ゴミ置き場の数は十分あつた | 52. ベット専用区域があつた |
| 17. 食事の手洗いが可能であつた | 34. ゴミの運搬はされていた | 53. ベッドに受け入れられる清潔度があつた |
| 18. 食器洗いが可能であつた | 35. ゴミは適度に処理されていた | その他 |
| 19. 清潔なキッチンがあつた | 36. ゴミは定期的に運び込まれていた | 54. 身体障害者に配慮があつた |
| | | 55. 下水処理が可能なだった |

トシート(評価シート)です。面白いことも書いてあります。例えば、水が使えたか？だけではなくお湯が使えたかどうか？だったり空気が汚れていなかったか？一人あたり3.3㎡以上あったか？虫がいなかったか？とか食事は避難所で作っていたかどうか？とか。安全な水があったか？だけではなく安全な氷が

避難所の環境が悪いのか？災害救助法をよく読むと色々書いてあります。まず費用ですが、一人一日当たり 340 円と規定されています。これは支援物資とかを含めた金額です。これで皆さん大丈夫ですか？

さらに救助期間は、災害発生から 7 日間とあります。もう能登は一年くらい経っていますよね？ 7 日間ではもちろん終わらず 7 日間延長する、更に 7 日間、というように最初の 7 日間が永遠に繰り返されるという“法律の立てつけ”です。質の向上が伴っていない、最初の 7 日間がずっと続く、これが避難所が良くならない理由のひとつです。

災害救助法が適用されるもしくはされない、というニュースを聞いたことがあると思いますが、適用されると市町村はホッとします。なぜなら適用されると財政負担が国になるからです。ではどうやったら適用されるか？簡単です。沢山死ねば、沢山被害が出れば適用されます。なんか違いますよね、100 人亡くなった場合と、1 人が亡くなった場合、1 人が亡くなったほうは適用されません。そうすると市町村の担当者はどうしますか？適用されるまで、じっとしておこうと思ってしまいます。これが救助の遅れです。1 人だろうと 100 人だろうと関係ない、災害支援はすぐにスタートしなければならないのです。

T K B の導入が難しい理由：1,741 市町村の 1,741 通りの避難所、災害救助法の適用不適用、そして被災自治体の職員が被災者支援をする、色々なことがあって、はっきりと言えるのは、次の災害も全く同じことが起きる

TKBの導入が難しい理由

- ・避難者支援は市町村が主体であり単独で資機材の調達は困難
- ・全国1,741市町村の1,741通りの避難所存在
- ・災害救助法の適用は発災後の被害状況に左右される
- ・被災自治体の職員が被災者支援を行うことになる
- ・定期的な異動があり専門知識の蓄積ができない
- ・慢性的な人員不足と職員の高齢化
- ・危機管理と保健福祉の連携不足

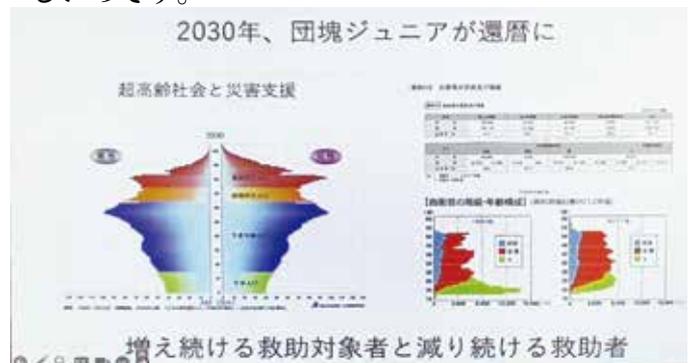
つまり、次の災害も同様になる可能性が高い

市町村防災の限界（法律を変えるしかない）

ということです。何故なら、これが法による正しい救助だからです。

2 年後防災庁が出来て、日本もようやくイタリアのようになると期待すると思いますが、変わりません。法律を変えないと変わりません。

2030 年、あと 5 年で団塊ジュニアが還暦になります。すなわち、増え続ける救助対象者と減り続ける救助者、という現象が今すでに始まっています。だから被災してはダメなのです、災害が迫ってきたらすぐに逃げてほしいのです。



皆さん、何かあれば自衛隊来てくれると思っていませんか？自衛隊来ないです。自衛隊定員割れしています。93%くらいしかいません。93%もいるのか？違います。幹部がいっぱいいるだけで 20 代 30 代の若手は 74%しかいないのです。何かあれば自衛隊、そんな時代は過ぎました。

誰が災害支援するのか？法律では公務員がすると書いてありますが、公務員だけではダメですよ。やはり段ボール屋さんや段ボールベッド、料理人は避難所の食事、電気工事屋さんは避難所で電気工事する、というように、どんな職業の人でも積極的に災害支援に

誰が被災者支援するのか？

自衛隊員の高齢化と定員割れ ⇒ 行政だけの災害支援の限界

- ・首都圏下の避難者 約720万人＝人口の約5.7%
- ・南海トラフの避難者 約210万人～430万人＝人口の約1.7%～3.4%

被災自治体の職員が関わらない避難所運営の仕組み
西下市や総社市の事例

- ・被災者兼支援者の限界 → 外部支援者が避難所運営
- ・支援者支援の必要性 → 物的金銭的サポート
- ・避難所運営の標準化 → 過剰のない支援

職能支援者制度の設置 DMATの避難所運営版

積極的に関わっていく時代になってきたと思っています。

やっとイタリアのTKBの話に入ります。TKB48知っていた人？まだそんなにいませんね。最近では新聞やメディアで取り上げられ、石破総理も言っていますが、私とトイレ研究所の加藤代表と話していて思いつきました。T = トイレ、K = キッチン・食事、B = ベッドの略称です。

イタリアの事例

避難所の環境はTKB48(h)

T = トイレ、シャワー
(衛生)

K = キッチン、食堂
(栄養)

B = ベッド、生活空間
(睡眠)



この写真はイタリア赤十字が管理しているアブルッツォ州にある物資拠点の1つです。グーグルマップの写真です。同じ縮尺で、な

巨大な備蓄拠点が点在

Croce Rossa Italiana
Operativo Emergenze



兵庫県但馬空港



んと地方空港（兵庫県但馬空港の写真）くらいあります。これが全国で8ヶ所、日本の人口はイタリアの約2倍ですので、日本でこういう施設が16箇所あればいいのです。中を見るとTKB全て、冷蔵庫も洗濯機もあります。

イタリア赤十字が管理する備蓄倉庫

3,000人が長期避難生活を不自由無く過ごせる資機材を備蓄
(10ユニット)



トラックバスも多数保有

衣服の備蓄

物流倉庫に資機材を保管

防寒着もちゃんとありました。洋服の裏を見たらベネトンと書いてありました。トラックもバスも全部自前です。ここだけで3,000人が長期避難できる資機材が揃っていました。これが8箇所あるので24,000人です。更に国の8箇所だけでなく、州や県にもそれぞれあります。何ユニットあるのか分からない位イタリアにはイタリア中にあります。おそらく500ユニット以上あると思います。

トイレを見学すると、トイレにはシャワーがついています。手洗いも中で出来て、エアコンも付いています。

アブルッツォ州の備蓄基地



- ・コンテナが100基
- ・トイレシャワーがセット
- ・空調付き

次にキッチンカーです。この人達（写真）は全員プロの料理人です。これが食堂ですが、わざわざテントを建てて机も椅子も持ってきます。メニューは普段食べているもの、たとえばペンネなど地元の料理です。なぜ食堂が



作られるのか？ということですが、日本は炊き出しの行列に並んで汁ものをもらい、お盆を持ち、杖をついて自分の所へ帰ってきて、床に置いて1人もしくは家族で食べます。

イタリアは違います。食堂で食べるのです。何が違うのか？普段皆さんも同じようにされ

K キッチンカーによる温かい食事の提供

- ・イタリア 1食あたり1,134円(7ユーロ)
- ・日本 1食あたり393円(1,180円/日)
- ・完成品の調達ではなく食材の調達
- ・出来るだけ美味しい食事を提供
- ・食事が被災者を元気にする
- ・60時間の研修を受けた調理師



ていると思います。

4LDK、3LDK というように言いますが、これは「食寝分離」と言います。食べる場所と寝る場所を分ける、これが文化的な生活と言われていて、多分皆さんもこうであると思いますが、イタリアもそうしているのです。

食堂でコミュニケーションを取りながら食事して、もちろんエスプレッソも飲み放題です。ワインも出ます。熊本で焼酎を出そうかという議論がありましたが、却下されてそうですが、イタリアでは当然ワインも出ます。野菜ジュースではなく生野菜が出ます。肉、パスタ、果物です。イタリアは1食あたり7ユーロ(約1,100円)、日本は1食当り、この間値上がりしまして390円。

イタリアの料理人は何て言っているか? 「とにかく美味しい料理を提供したい。」どこへ行っても、皆さん美味しい料理を出したいと言われました。なぜか? 食事が被災者を元気にするからです。

皆さんサプリメントやビタミン剤配られて元気出ますか? 栄養は大事ですが、心の栄養だってあります。美味しいものを食べたら元気が出る、それを徹底しているわけです。栄養士はいなくてコックさんだけです。日本は、もし食事の提供をするのであれば栄養士さんがいます。

次にBについて、これがテントです。家族単位で入ってプライバシーが保たれます。犬も一緒にはいます。そしてテントから朝昼晩食堂に食べに来るのです。日本ではよくカー

B アブルッツォ州ペネ市の避難所設置訓練



- ・1ユニットで250名収容
- ・支援者は50名
- ・合計300人が長期生活
- ・設営から撤収までの費用は国の負担



テンで仕切られているところがありますが、あれば良くないです。引きこもりになりうつ病になります。イタリアは食堂でワーワー言いながらみんなで食べます。エスプレッソ飲んでケーキ食べて、つまりは避難所であっても、普段と同じリズムの生活をします。

臨床心理士による子供のPTSD 予防活動



ゲートでの10チェック

- ・発災後48時間以内に臨床心理士による精神的なケアが始まる
- ・母親と乳幼児専用のトレーラー
- ・避難所の出入りを10で管理

更に子供の遊び場というのが必ずあります。コメディアンやピエロなども来ますし、更に心のケアの為に臨床心理士が48時間以内に来ます。日本も1ヶ月位すると来ます。もう少し早く、と思いますよね。

さらにイタリアの避難所はゲートがありIDチェックします。日本では出入り自由です。避難所で段ボール抱えてウロウロしている人を見かけることがありますが、泥棒です。泥棒が出たということで、自警団をやろうという話が出まして、夜中の2時に被災者が起きて、懐中電灯をもち見回りするのです。これは違うだろうと思いませんか? 警察も昼間は来ますが5時で帰ってしまいます。なんで被災者が昼間片づけに行き、夜も雑魚寝して、夜中に起きて自警団やらないといけないの

か？あまりにもピントが外れていると思います。

これ（写真）は赤ちゃん、母子専用のスペースです。この中で安全にハイハイすることが出来ます。もちろんエアコンついています。こういう設備もあとから来るのではなく、すぐに来ます。



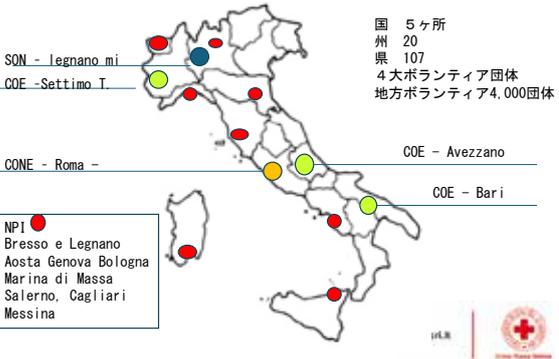
イタリアは実は日本以上に災害が多いです。約100年前のメッシーナ地震では津波がきて東日本大震災の5倍の、約10万人が亡くなっています。1980年にもイルピニア地震が発生、約3,000人が亡くなりましたが、この時のペルティーニ大統領は、政府としてコントロール出来ず失敗したと認めました。その2年後に市民保護局というのが出来ました。

A LONG HISTORY OF LESSONS LEARNED
学んだ教訓の長い歴史



イタリアは、基本的にはボランティアが支援の主体ですが、ボランティアだとタダでやりますというイメージがありますが、ボランティアとは本来志願という意味でして、アメリカの兵隊はボランティア、つまり志願です。このボランティアの団体が全国4,000団体あり、登録されているボランティアは約300万人います。国民の5%もいる、すごいです。

STRUTTURE OPERATIVE LOGISTICHE CRI



THE ITALIAN CIVIL PROTECTION SYSTEM
イタリア市民保護局



これ（写真）がローマの市民保護局の内部です。市民保護局、消防、陸海空軍、警察、等同じワンフロアで、行政は縦割りにになってしまうので、そうならないようにワンフロアにしているそうです。

COMMAND, CONTROL, COORDINATION 命令、制御、調整

S.I.S.T.E.M.A.

- Monitoring and coordination centre
- 24/7/365
- Modular structure
- Supports the Operational Committee and/or the Crisis Unit

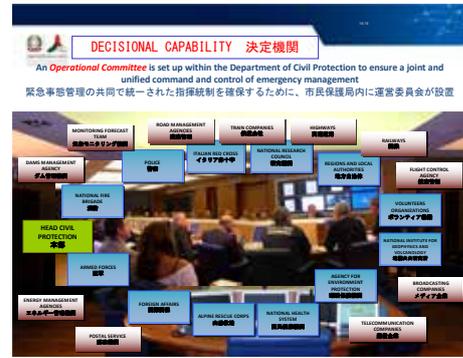
Permanently staffed with personnel from:

- Department of Civil Protection
- Fire Brigade
- Armed Forces
- Police
- Carabinieri
- Red Cross
- Financial Police
- Coast Guard

市民保護局
消防
軍隊
警察
治安官
赤十字
金融警察
海岸警備

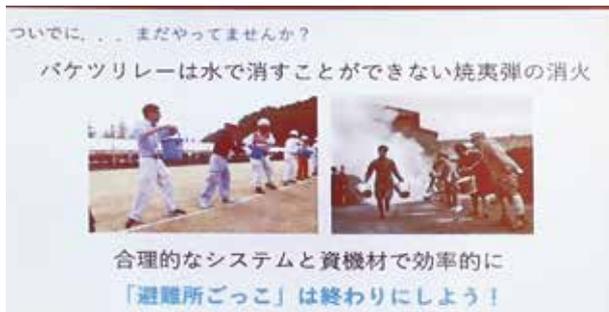
ローマの市民保護局では、各団体が同じフロアで24時間365日イタリア全土をモニタリング

これ（写真）が市民保護局の意思決定機関です。この中にボランティアも入っているの
で情報共有がきちんとされています。



- ・ラクイラ地震では発災30分後に災害対策会議開催
- ・2時間後に支援部隊が出発
- ・発災当日中に被災地でTKBが稼働

内閣府はこのイタリアモデルをやろうとしてまいります。たださっき言ったように日本の



第二次世界大戦中のイギリスロンドンの地下鉄に避難された映像を紹介しましたが、同時期の日本はどうか？地下鉄の入り口に鍵をかけて入れないようにして、消火活動をさせたのです。消火活動ができない高齢者と子供を地方へ送る、これが疎開です。同じ時期、英国と日本で人権がどのように扱われていたのか。

私がイタリアで学んだこと、それは皆さん言うのが「たった一人の犠牲者も出さないこと」。大災害とはどの位の規模ですが？と尋ねると、「そんなの一人死んだら大災害に決まっているだろ」と皆さん答えます。「たった一人の犠牲者も出さない」これが共通認識になっているのです。

災害支援には哲学が必要です。先ほどコーヒーミルが支給されないという話をしました。法による救助ですから正しいですが、しかしながら哲学は法律より上です。なぜなら哲学は原理原則だから。イタリア人は、人を救うのに哲学が必要だと言います。全くその通りだと思います。

最後に、被災者にとって地震など自然災害が敵ですが、今は違います。敵は「絶望」です。「絶望」にさいなまれています。なぜなら、生活を復旧できますか？70歳80歳になって家財道具が全部無くなり、家も潰れて無理じゃないですか？気力なくなって衰弱して死んでしまうのです。これに打ち勝たないといけないうのに、市町村はそれぞれ入札で防災用具を買って、絶望と戦わないといけないうのに、安いやつを買うのです。

避難所環境を向上させて災害関連死を無くすには

- 論点**
- 関連死を防ぐための課題
 - 救助法の7日間の括りは現実と乖離（数ヶ月以上）
 - 支援の標準化（全国1,741市町村）
 - 避難者を患者にしない（精神的+肉体的ダメージ）
 - 関連死を防ぐ視点
 - TKBの導入する仕組み（民間を含めオールジャパン）
 - 災害支援の市町村任せの限界（外交と防衛と同等に）

防災専門の省庁の設置が必須

2年後に防災庁が出来ることが決まりました。しかしながら、今日お話したようなことを変えないと、つまりは法律を変えないとますます避難所格差は広がります。良いところは良くなっていくでしょうが、地方の全然変わらない所と同じ、日本国民でも格差が広がります。だけど防災庁、期待したいと思います。

我々の仲間も委員として入りました。我々もどんどん意見を言って、変えていきたいと思えます。標準化の実証実験も国とやっていたと思っていますので、期待していききたいと思っております。イタリアは災害関連死ゼロですから、日本もなんとかしてそういう風にゼロにしていきたいと思えます。ありがとうございました。これで終わります。

イタリアで学んだこと



- 「たった1人の犠牲者も出さない」強い決意
- 災害支援には哲学が必要
- あらゆる専門職種が関わる仕組み
- 敵は「災害」であり守るのは国民である
- しかし被災者にとって本当の敵は「絶望」である
- その為に国レベルで標準化が必要



講師の水谷先生